

## 山形県東根市立神町中学校の東日本大震災復興支援「支え愛プロジェクト」

山形県東根市立神町中学校（大内敏彦校長、398人）は、東日本大震災で被災した東根市の友好都市である東松島市の鳴瀬第二中学校（高橋裕子校長、134人）を支援する「支え愛プロジェクト」に取り組み、平成23年10月6日（木）に訪問し、ビデオレター等を届けました。今後もこのプロジェクトは継続して取り組みを続けていきます。

### 1. 「支え愛プロジェクト」の内容とは、

この名前には、神町中と鳴瀬第二中とが支え合い、そこに「愛」があってほしいという願いを込めました。

#### ①アルミ缶回収

学校のみでの活動だけでなく、地域の方々にも協力をお願いしました。

#### ②節電

休み時間などの節電だけでなく、夏休みに生徒一人一人が節電カードを作成し取り組みました。

#### ③募金活動

全校生徒と先生、PTAによる募金を行い、文化祭においても地域の方々にも呼びかけを行いました。

#### ④ビデオレターの作製

体育祭の赤軍、黒軍、青軍の3軍による応援メッセージを作製し、お渡ししました。

プロジェクトは、青少年赤十字の態度目標「気づき・考え・実行する」に基づいています。

#### ○「気づき」では、東松島市の実情・現状を知り、気づく。

現地視察をした先生、日赤山形県支部の職員、ボランティア活動を行った赤十字奉仕団委員長の体験談を聞き、そこから自分たちで気づいたことを出しました。

#### ○「考え」では、自分たちができることを考え、「支え愛プロジェクト」を立ち上げました。

#### ○「実行する」では、立ち上げた「支え愛プロジェクト」に基づき全校生で活動に取り組みました。

## 2. 宮城県東松島市鳴瀬第二中学校の被害状況

海水浴場の野蒜(のびる)海岸から約200mの距離にある学校だったため、校舎は、津波の直撃により大きな損傷を受け、使用不可能となり、学校内の備品等もほとんど破壊、流出してしまい、現在は、隣接する鳴瀬第一中学校に間借りをして授業を行っています。

生徒の約84%が津波の被害を受け、現在も約66%が自宅外から通学しており、残念ながら亡くなられた生徒は3名、保護者は10名でした。

## 3. 鳴瀬第二中学校を訪問

平成23年10月6日(木)生徒会役員6名、教員、PTA7名が間借りしている鳴瀬第一中学校を訪問しました。

始めに、山形県東根市立神町中学校生徒会長の有川幹太さんが「今日は、神町中と鳴瀬第二中に橋が架かって、僕たちと皆さんの歩む道は一つとなり大きな大きな道となりました。これからは、同じ一つの「チーム」として僕たちと皆さんともに協力し合いこの大きな道を歩んでいきましょう」との挨拶の続き、同校JRC委員長の阿部亜未さんから「支え愛プロジェクト」の活動内容の説明があり、「活動を通して少しでも皆さんの力になればいい。これからもともに支え合っていきましょう」と挨拶をしました。

これに応えるかたちで、宮城県東松島市鳴瀬第二中生徒会長の秋山公成さんは、「皆さんの支援から「支え合っていくことの大切さ」を強く感じ希望をもらいました。皆さんからいただいたこの思いを胸にこれからの学校生活を充実したものにしていけるよう頑張っていきたい」と感謝の気持ちをいただきました。

その後、神町中学校生徒会長の有川幹太さんから鳴瀬第二中生徒会長の秋山公成さんにアルミ缶回収と募金で集めて学校への寄付金約16万円とビデオレターが手渡されました。



被災した鳴瀬二中の教室



職員室



義援金贈呈



両校の生徒